

# 第56回全国学童保育研究集会



「わが子のためだけでなく、学童保育を必要とする子どものために行動する大人の姿を子どもは見ている」と語る石原剛志静岡大学教授

# 歴史に学び未来をひらく



岩手県学童保育連絡協議会  
〒020-0122  
盛岡市みかひけ3-38-20  
岩手県青少年会館内  
Tel・Fax 019-681-0651

## 岩手県学童保育研究集会を開催

県連協は11月28日に学童保育研究集会をオンライン開催します。オンラインの特性を生かし全国から多彩な講師陣を迎え、充実

### 全体会・基調報告

第56回全国学童保育研究集会は10月23、24の両日開催されました。昨年の全国研は山形県で開催予定でしたが中止となったため、2年ぶりの開催となりました。今年はコロナウイルス感染防止のため初のオンライン形式で開催され、全国から約4600人（岩手県からは303人）が参加。1日目は全体会、2日目は分科会が行われました。

### 記念講演

記念講演では、「学童保育の歴史から学び、未来をひらく」と題して、石原剛志静岡大学教育学部教授が講演しました。

石原教授は「1960年代は女性の結婚退職、出産

の講義内容となっております。全体講演は代田盛一郎大阪健康福祉短大教授が「今、大切にしたい子どもの遊び」と題して講演します。

による解雇が裁判で争われた時期。働くことと子どもを育てることを共に実現するため、保育園や学童保育が求められた」と学童保育が生まれた背景を解説。70年代にかけて、保育園関係者や保護者が手ざぐりで学童保育をつくり始めたことを紹介しました。「当時は母親が働くことを批判的に見る社会の雰囲気があり、学童保育への批判もあった。」

「学童保育の歴史は目の前の子どもたちと、未来の子どもたちのために行動してきた人々がつくった歴史」と語りました。

さらに各時代の実践記録から社会情勢や子どもを取り巻く環境を読み解き、「前例のない課題」に立ち向かってきた学童保育の歴史を振り返りました。また、今の学童保育が直

面している課題として新型コロナウイルスを挙げ、ほいく誌（20年9月号）から2例の実践記録を紹介。石原教授は「記録からコロナ禍においても、子どもと話し合い生活をつくろうとしていることが分かる。」と述べ、「子どもと共に（コロナ禍を）乗り越えていこうとする実践の姿勢は光って見える」とたたえました。

一方、今年8月に静岡県学童保育でクラスターが発生した際、「黙食」を徹底しなかったことが原因とマスコミ各社が報じたことに触れ、「子どもを管理の対象と見て、現場の指導員と子どもに責任を負わせるような論調に悲しくなった。行政に設備の水準を高めていく責任はなかったのか？」と問いかけ、「改めて実践の基盤となる設備や運営に関する条件を向上させることの大切さ認識した」と力を込めました。

石原教授は「人間は利己的な存在だと思わされる現実はある。でも、学童保育の歴史を研究するなかで学童保育を求め作ってきた人々のことを知ると、人間って悪くない。大きな社会の中

### 分科会

全国研2日目は、27の分科会が行われました。各分科会には各県の連絡協議会がホストになる形で運営され、岩手県連協は第2分科会の中の「学童保育の生活とあそび」の分散会を担当。約130人が参加し、活発な交流が行われました。

### 「請願署名」と「声」未提出あれば送付を

11月10日現在、「学童保育の拡充を求める請願署名」は8864筆、「一人ひとりの声を届けよう」は155筆が集まっています。

寄せられた「声」は国や自治体に届けられるほか、請願署名は全国連協がとりまとめ、国会に提出される予定です。各クラブでまだ未提出のものがありませんら県連協までお送りください。